

平成28年度 学校評価総括表

五條市立 五條中学校

教育目標		◎知・徳・体の調和がとれた心豊かなたくましい生徒を育成する。					総合評価	
		<生徒像> ○ 進んで学び考える生徒 ○ 思いやりのある生徒 ○ 自らを鍛える生徒						
運営方針		規範意識の向上に、全力を注げる組織体制の構築					B	
前年度の成果と課題		本年度の重点目標						
防災教育及び学力向上推進に向けての教育効果については、一定の成果が表れた。本年度の課題として、引き続き全職員により、上記の教育実践を継続するとともに、読書活性化事業及び道徳教育推進ともリンクしながら、特色ある学校運営を行う。		・ 個に応じた学習指導を充実するとともに、基礎・基本的な知識及び技能を定着させるための学習活動を工夫し、各教科において言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力を育成する。						
		・ 自分や他の人への理解を深め、生命を大切に作る心、人権を尊重する心や自立心、責任感、正義感を育む。家庭学習の習慣を身に付けさせる。						
		・ 健康で安全な生活習慣を確立し、体力の向上を図ると共に積極的に運動に取り組む態度を育てる。						
		・ P T A及び自治会等地域組織との連携をはかる。						
教育活動や分掌等	評価項目	具体的方策・評価指標等	評価		成果と課題(評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価	
基礎・基本の定着	朝読書の推進・読書習慣の定着推進	図書の貸し出し目標600冊 図書支援員の活用	B	A	B	・ 今年度の目標冊数600冊は達成することができた。図書室の環境も整い来室者の増加につながった。 ・ 図書館支援員の方との連携を密に図りたい。	・ 次年度は図書室への来室機会を設け、来室者・貸出冊数とも増加させたい。 ・ 図書支援員の方との話し合いをする機会を増やし、どのように改善していくかなど話し合いたい。	あいさつやマナー・礼法等の向上については、日々の学校・家庭・地域による参画・協働、更には指導による規範意識の向上が顕著に表れている。 また、生徒・保護者アンケートの調査結果を分析すると、生徒本人の学習に対する興味・関心・意欲の向上はあるものの、家庭での学習への取組については課題があるように思える。その方途としては、将来に向けての夢や目標を抱かせる教育活動の実施をはじめ、基礎・基本を大切にしながら、『「確かな学力」と「豊かな心」を育む学習指導の研究』の継続に期待したい。
	少人数指導の活用	全学年数学科の少人数指導の実施	A	A		・ 少人数指導の実施により、基礎学力の定着していない生徒へのきめ細やかな指導を実施することで、生徒が積極的に質問する姿も増え、学習への意欲の高まりが見られるようになっている。ただし、めざましい成果を収めるには至らない状況である。	・ 小テストを活用してのつまづき箇所の発見や、基礎・基本の問題の繰り返し学習の継続、更にICTの活用による分かる授業を推進することで、学習意欲と学力の向上を図りたい。	
	言語活動の充実	全生徒参加による「少年の主張」実施	A	A		・ 今年度も「少年の主張 奈良県大会」に全校生徒で取り組んだ。命のつながりについて、かけがえのない友人の存在、自分を支えてくれる家族の存在などに目を向ける作品など、本校から努力賞に2名が入賞し表彰された。今年度も作文発表会を設定し、入賞生徒の作品に耳を傾け、感想文を書いた。社会的視野の狭さを補うためにも、総合的な学習や教科の授業で新聞作りなどを作成した。伝えたいことを文章にする取組を今後も続けたい。	・ 少年の主張 奈良県大会に全校生徒で取り組むことを今後も継続したい。自分自身を振り返り、支えてくれる人の存在から、社会の中で自分がどのようなことをしていけるかなど、他者に目を向けられるよう、総合的な学習をこれまでと同様に、職場体験学習や働く人々に学ぶ学習会での経験を多に生かしていけるようにしていく。	

平成28年度 学校評価総括表

五條市立 五條中学校

教育活動 や分掌等	評価項目	具体的方策・評価指標等	評価			成果と課題(評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価
			A	B				
基礎・ 基本の 定着	学習習慣の定着化	「夢現の力」提出率90% チャイム着席の励行 放課後補習及び土曜塾の開講 自主学习ノートの習慣化	A	B		・昨年度から引き続き、土曜塾を開講した。対象学年、開講教科、開講時期を検討し、実施したところ3年生51名のうち16名の参加があった。 ・家庭学習習慣の定着に向けて、自主学习ノートの取組を全学年で実施した。継続したノート指導をおこなった。	・家庭学習習慣の定着に向けて、来年度はノートコンテストや強化週間を開催するなどの取組を実施していく。	※前欄参照
学習意欲 を引き出 す授業の 展開	教科・領域の学習を充実させる 効果的な指導を行う	シラバスの作成 授業研究の充実 ICTの活用	A	B	B	・シラバスの配布により授業内容および学習評価基準について保護者との情報共有につとめ、学力向上に向けて保護者の理解が深められるよう、家庭学習の推進について協力を呼びかけたい。 ・自校については道徳の授業研究を、また校区内の小学校との合同研究授業により小中一貫に向けての交流を行った。 ・授業でのICTについてはデジタル教室使用の教科が増え、英語に加え理科、数学等3教科以上となった。	・今年実施した校区内の小学校との合同研究授業については継続予定である。また、教科学習については、授業研究の機会をさらに多く設定できるように計画したい。 ・ICTを活用した授業については、教科数も増え教員のスキルも上がってきている。更に実施教科数や活用できる教員を増やせるよう、教材作成と環境整備を進めたい。	
学級指導 特別活動	学びにふさわしい環境と人間関係づくり	Q-U検査の活用 生徒会活動と学校行事の活性化	A	A	A	生徒会を中心に、学校行事を盛り上げ、募金活動や地域との連携を図る「防災宿泊訓練」に取り組んだ。また、「花いっぱい運動」の一環として、「ひまわりプロジェクト2016」で収穫した種を、地域の学校・施設に配布して、環境整備の和を広げることができた。積極的に参加する生徒も増えている。年度中に行ったQ-U検査について、学級経営や生徒指導に活用した。また、教員もQ-Uの研修になるべく参加するようし、教員間の知識の共有に役立てることができた。	・より積極的に生徒会活動に参加しようとする生徒をいかに育てていくか。 ・防災に関する意識をどう高めていくか。 ・生徒会と地域との連携を一層深める方途について多角的に模索する必要がある。 ・学力向上と学習習慣の定着をよりいっそう深めるための取組を続けたい。	
生徒指導	よりよい集団の育成	リーダーの育成						

平成28年度 学校評価総括表

五條市立 五條中学校

教育活動 や分掌等	評価項目	具体的方策・評価指標等	評価		成果と課題(評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価	
人権教育・ 特別支援 教育	自他の持つ人権を大切に、よりよく生きる力を身に付ける一方で、人との関わりを大切に、学ぶことのできる「豊かな心」を持つ生徒を育てる	「人権を確かめ合う日」集会の設定 ステップ学習の充実	B	A	A	人権を確かめ合う日の集会を開催し、人権について考える機会を設けた。また、作文発表会で他の生徒の考え方を知り、自分の考え方を見つめ直す機会を作った。ステップ学習では生徒の学習習慣の定着と学力向上、それらを通じた仲間作りを目標として取り組んだ。共同製作の作品を福祉施設に寄付するなどの取組において、おおむね達成できた。	・人権を確かめ合う日の集会を、生徒主体ですすめていけるような工夫が必要である。 ・人権についての知識を深めるために、様々な人々の話を聞く機会をこれまで以上に設けていくように努めたい。	支援を要する生徒へのケアをはじめ、インクルーシブな教育に向けた学級・学年経営や各種行事等の工夫を期待する。 また、たくましい生徒の育成については、小規模校になったものの各部活動あるいは、体育行事等の継続指導により、一定の評価を感じる。
運動を通じた体力の向上	部活動加入率90% 体力テストの活用	部活動の活性化。 体力テストの結果を掲示することによって体力向上の意識を高める	A	A	A	部活動加入率は現状86%である。部活動においても加入率は90%に達することができなかった。 運動への意識を高めることで苦手な部分の向上する事ができ、長距離においても昨年度と同様の形で実施し、向上が見られた。	体力テストの結果の掲示をもう少し早めることで苦手分野の意識を高めることができる。今後も継続していきたい。	
健康で安全な生活習慣の確立	危機管理意識の育成	「安全・安心」な学校づくりの推進	A	A		防災教育を通じて、宿泊訓練のみならず、災害に備えた避難訓練を学期に1回以上行ってきた。また、危機管理意識の向上のために不審者侵入の対策を行い防犯訓練を行った。	危機意識を普段から持つためには、生徒の臨機応変な対応力が必要である。事前に知らせずに、場に応じた避難回避行動がとれる訓練を今後も継続する。	
家庭・地域との連携	PTAの活性化	学校と地域が連携・協働する体制の構築	B	B	B	・学校行事や防災宿泊訓練、PTA各委員会活動等に保護者が積極的に参加し、地域行事にも参加することにより、学校・家庭・地域との連携を図った。	学校運営協議会とも連携を深め、様々な活動に取り組むための熟議の場を持つ回数を年3回以上に増やす。	PTA活動をはじめ、パートナーシップ事業や学校評議員会、更には、学校運営協議会等を通して、ボランティア活動や防災教育の広まりや深まりができ、かつ各事業や各委員会がリンクし、良きシナジー効果が生じた。今後も引き続き継続することを期待する。
	地域の教育力の活用	五條学の実施 ふるさと学習	A	A		・1学年では藤岡家住宅訪問、2学年では吉野川でのラフティング体験および浴衣着付け体験、3学年では修学旅行時にふるさと五條を紹介した。それぞれの活動を通じて、五條の文化財や豊かな自然のすばらしさを確認し、郷土を愛する心情を養った。	・各行事とも、生徒達は積極的に楽しみながら学習活動に取り組む、自分たちのふるさとについての関心や理解を高めることができた。また、ご協力いただいた地域の方々からお褒めの言葉を頂いている。今後も取組を継続したい。	
	情報の発信	学校新聞・学年だよりの発行 メール連絡網・HP・Blog等の活用及び活性化	B	B		・年2回の学校新聞、月1回の学年だよりの他、保健だよりの発行も行い、情報発信を継続的に行っている。 ・HPやblogでは、修学旅行について今年もblogで情報を発信し、多数の方に閲覧して頂くことができた。これからもより新しい情報を発信できるようにしたい。	・紙面による連絡が保護者に届いていない場合が多いため、生徒への指導を徹底させる必要がある。 ・「マ・メール」では、現在は緊急性のある連絡を行っている。ただし保護者からの要望があるため、活用方法の検討も必要である。	